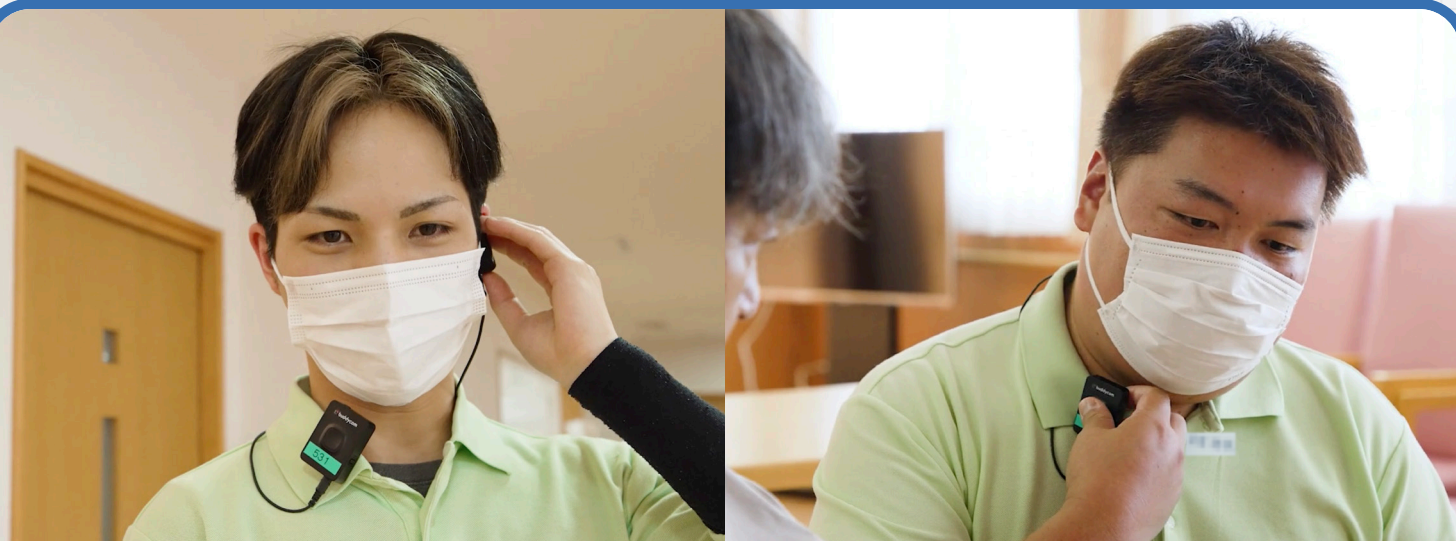




多くの拠点で生産性の向上を実現 職員の負担が大幅に改善

株式会社ニチイ学館では、業務の効率化や職員の負担軽減、サービス品質の向上に向けて、特定施設入居者生活介護の拠点を対象にICT機器を随時導入しており、スタッフ全員で情報共有できるコミュニケーションツールを検討していました。

以前は、スタッフの所在やサービス対応状況を確認するために、一日に何度も内線やPHSで個別に連絡を取ったり、直接フロアに行ったりして情報共有を行っていました。

Wi-Fiで安定して使えること、iPhoneの操作に不慣れな職員でも使いやすいこと、**ナースコールや見守りセンサーと併用できること**、そして「生産性の向上」「業務負担の軽減」が実現できることが決め手となり、Buddycomを採用しました。

導入後は、その場でスタッフ全員に情報を共有できるようになり、**スタッフを探したり備品や失せ物の場所を確認したりといった、介護業務以外に費やす時間が削減されました**。全時間帯の状況をログで振り返れるため、お客様や施設の状況を把握でき、スタッフの安心材料にもなっています。



ナースコール・見守りセンサーを併用 拠点全体でリアルタイムに連携

主な使用機能



グループ通話



音声テキスト化



通話履歴の再生



画像の送受信



ナースコール
連携

ナースコール・見守りセンサーと併用で 緊急時も安心

施設では見守りセンサーやiPhoneを使うためにWi-Fiを配備し、iPhoneにはナースコールアプリとBuddycomをインストールしています。グループ通話をメインに使うことで全職員が状況を把握でき、ご家族様や往診医の来訪も全スタッフへ周知が可能に。ナースコールや見守りセンサーの通知・応答中はBuddycomの音声流れないため、緊急時も問題なく運用できています。

シンプルな操作で幅広い年齢層に定着

スタッフの年齢層は幅広いですが、Buddycomは画面や作りが非常にシンプルで、現在ではiPhone操作に不慣れだった職員も使えています。会話は自動で保存・文字起こしされ、誰がいつどんな会話をしたかを後から時系列で確認でき、音声データを活用した現場のDXにつながっています。



導入前の課題

- スタッフの所在やサービス対応状況の確認のため、一日に何度も内線やPHSで個別連絡をしていた
- 情報共有のために直接フロアへ足を運ぶ必要があった
- 介護業務以外（スタッフや備品・失せ物を探す等）に時間が費やされていた

ご担当者からのメッセージ



施設全体での一括した情報共有・連携が可能になるため、介護職員のみならず、看護職員や事務所職員との円滑なコミュニケーションが実現しました。

Buddycomの導入は業務の効率化、生産性の向上につながっており、大きな効果を感じています。